

料山衣洲 （漢詩人）。漢詩人。安政二年七月五日尾張國知多郡布土村生れ、大正八年五月七日歿（一八六一—一九一九）。諱逸、字季才、通稱逸也。別號櫻雨草堂主人、氷壺軒主人、秋蓮菴主、衣洲蔗客、衣浦漁叟、鱸公醉上等。明治十年東京書籍館書籍出納掛、また雑誌「五洲近事」編輯に當る。のち臺灣に渡り、第四代總督兒玉源太郎の別荘古亭庄（南茶園）の管理人として居住。一十九年總督府創刊の「臺灣新報」、翌年創刊の「臺灣日報」漢文部主幹となり、臺灣三論界開拓者の一人に擧げられる。二十八年病を獲て退社。その後北京の保定府軍官學校（陸軍學校）（藩譯官に在り）、歸國後は大阪に在りて著述に従事。永井木原と親交があつた。

著書に『支那骨董叢說』（第一集・大正二年八月—二十七日、第二集・三年一月十五日、第三集・五年十一月一日、第四集・六年七月十八日、大阪・崇文會）、『書畫落款式』（大正三年十一月十日、大阪・崇文會）等。

